

3 A

~again activity and attachment~

○きっかけ

探求授業の一環で

環境問題について研究したい！



『衣服』に着目

廃棄量が多いことを知る。

SDGs 17の目標でもある、

「12 つくる責任つかう責任」

「12-5 2030年までに、ごみが出ることを防いだり、減らしたり、リサイクル・リユースをして、ごみの発生する量を大きく減らす。」



○高校生の衣服事情を調査

【方法】

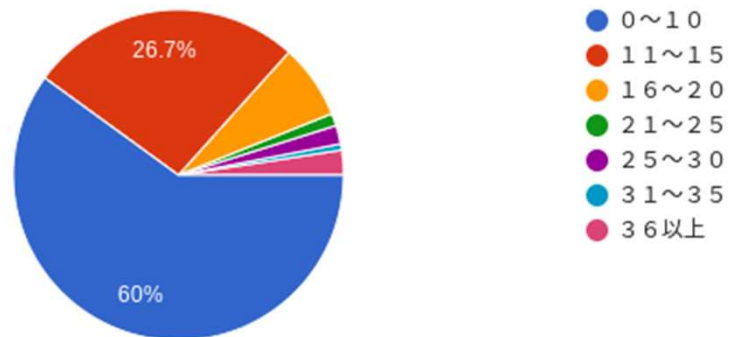
- ・ 第二高校二年生の男女に衣服に関するいくつかの質問に回答してもらった。
- ・ 使用アプリ：フォームズ
- ・ すべて無記名
- ・ 回答件数166件

○衣服使用量の現状

【調査1】

一年間でどのくらい衣服を購入しますか。(枚)

165 件の回答



・ 0～10枚と答えた人が6割を占めた。

・ ついで多かったのが11～15着で約3割。

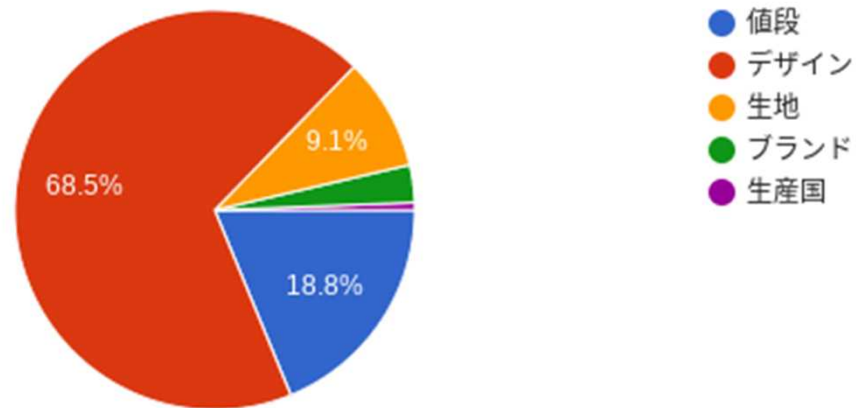
・ 約9割の人が1年間で15着に収まっている。

○衣服購入時の観点

【調査2】

衣服購入時に最も重視する点はなんですか。一つ選んでください。

165 件の回答



・ 70%の人がデザインを最も重視すると回答した。

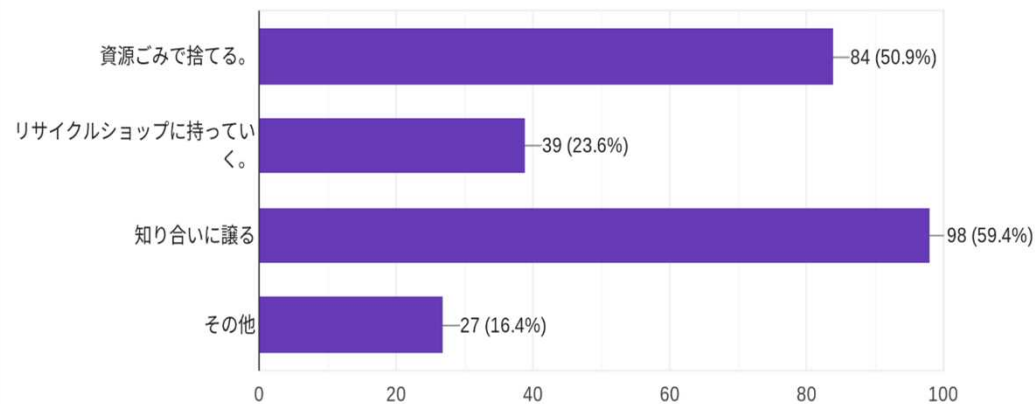
・ 高校生にとって値段も大事な要素の一つであることがわかった。

・ ブランドよりも生地にこだわりを持つ人が多い。

○着なくなった後、、、

【調査3】

着なくなった衣服はどう処理していますか。当てはまるものすべてを選んでください。
165件の回答



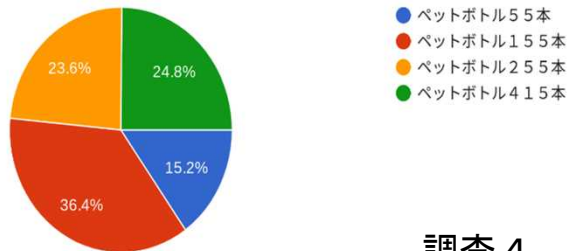
・ 六割近くの人が「知り合いに譲る」と回答し、最も多い回答となった。

・ ついで多いのが、約半数の人が回答した「資源ごみで捨てる」となった。

・ その2つの差はあまりないといえる。

○服一着の生産時の環境負荷とその認識

服一着の生産時(原材料調達から店頭が届くまで)の...だと思いませんか。(ペットボトル500mlあたり)
165件の回答



調査 4

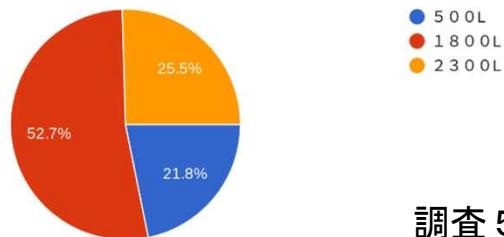
(調査 4) 正解 : 255本

・ 255本以下だと回答する人が過半数を占めた。

(調査 5) 正解 : 2300L

・ 1800Lという回答が5割を占め、正解した人は2割弱だった。

服一着の生産時(原材料調達から店頭が届くまで)の水の消費量はどのくらいだと思いますか。
165件の回答



調査 5

2つの調査の結果から服のかける環境負荷について正しい知識を持った人は少ないと考えた。

○衣服について意識していることなど

3Rを心がける。

小さい子供に自分が昔着ていた服をあげる、必要じゃないなら買わない

うちは兄弟が5人と多く私が長女なので、サイズが合わなくなったり着なくなったりした服はほとんど妹達に譲ります。

長く着続けられるものを買うようにすること

あまり買わない

リサイクル大事

○衣服の廃棄量を減らすために

【個人】

・ 購入する前

買いに行く前に、どのような服がほしいか考えて出かける。

自分の持っている服と着回しができるか考える。

購入する衣服の原材料を見る(環境面の配慮など)

古着などのリサイクル品を購入する。

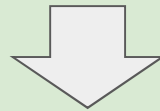
・ 購入したあと

大切に使う(洗濯など)

・服が着れなくなったとき

再使用できるか考える（譲る、リメイクする、売る）

リサイクルに出す



最終手段として、、、、

廃棄する。

○衣服の廃棄量を減らすために

【社会全体】

- ・衣服の廃棄量を減らす取り組みを行っている企業などの支援をする
- ・ポスターなどを作り、社会全体で衣服の廃棄量を減らす意識を高める。
- ・衣服のゴミ問題についての正しい情報を提供し、情報をいつでも誰でも見ることができるようにより市町村ごとに公開する。

○提案『 3A ~again activity and attachment~』

「衣服コンテスト」を実施する！

【目的】

- ・ 衣服問題を考えるきっかけにすること。
- ・ 楽しみながら、衣服の廃棄量の削減に貢献すること。
- ・ さらにものを大切にする意識を高めること。

- ・ 対象：高校生

社会の一員としての自覚をもって、衣服の環境問題について考えてもらうため。また、大学生になると私服を着る機会が増え、特に衣服の問題について考えるきっかけにしてほしいから。

- ・ 条件

材料：着なくなった衣服

日常生活で使えるものにリメイクする。

- ・ 評価の観点

①廃棄量

②ユニバーサルデザインを考慮しているか。

③日常生活で不便なく使えるか

④独自性

- ・ 製作期間

一ヶ月ほど

- ・ 実施：

家庭科の授業の一環

- ・ どんな効果が期待できるか

高校生を中心として
衣服の廃棄量削減について考えるきっかけに！



社会の中心となっていく世代！
これからの日本に与える影響が大きい！！

○プロジェクトを通して

- ・ 環境に配慮した考えを持つ人は多いが行動に伴っていない人が大半である。
⇒危機感が足りない・当事者意識がない
- ・ 問題の原因、企画の対象者など様々な立場で考えていくことが大切
⇒企画の成功に欠かせない

○目指している未来

- ・生産時や購入時も環境を意識することができる大事な場面である。
⇒そこでの課題も見つけ様々なパターンの貢献方法を見つけない。



参考

https://www.env.go.jp/policy/sustainable_fashion/

https://www.trans.co.jp/column/sdgs/clothes_recycling/

https://www.ac-illust.com/main/search_result.php?word=%E3%81%8D%E3%81%A3%E3%81%8B%E3%81%91

https://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/2030agenda/sdgs_logo/